

古今俳諧明題集

秋之部



5
1855
3



古今俳諧明題集煉部目錄



六月立夏

銀河

靈祭

通曜

秋著入

角能

秋改

蟋蟀

初秋

七夕鞠

英名祭

三井寺女流

逆峯入

純心

煉雁鳥

草細

坊漬娘

七夕

文殊會

生名靈

花砲

残暑

初暴風

煉螢

蟻鈴

金澄虫

七夕雨

清水寺女日流

煉沙

傾入

西露

踏足

秋露

草冬虫

久遠蟬虫



獨角虫

天牛

蛭

五十年花

散花

心花散

荷

花

散花

秋海棠

秋海棠

花

散花

馬唐

女青

花

散花

雀麥

芭蕉

花

散花

早稻

落葉

西瓜

散花

壺盧

條瓜

豆

散花

蕃椒

毛桃

葉

散花

木槿

二百四

八朔

散花

散花

散花

二月月

散花

散花

散花

十八夜雨

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

散花

萱草子爵

苦欠多快

玉丸

水芙蓉

海雛像

長夜

真麩少

熊籠

地海

松不愛色

徹子

小賊川

茨木之層

葡萄

木犀

野文の

書室

露之

虫擇

美年春

乾之燭

樹

茜草

草棟

白英

落土香

十之

夜

雨靴

爵入大水為蛤

紅葉

賽烟

梨

茶垢

括樹

飽

九日女

玉市

新酒

蒙紙龜

紅葉錦

浪杏

栗

柘榴

梅

櫻

草

包橋

小袖

妹夕

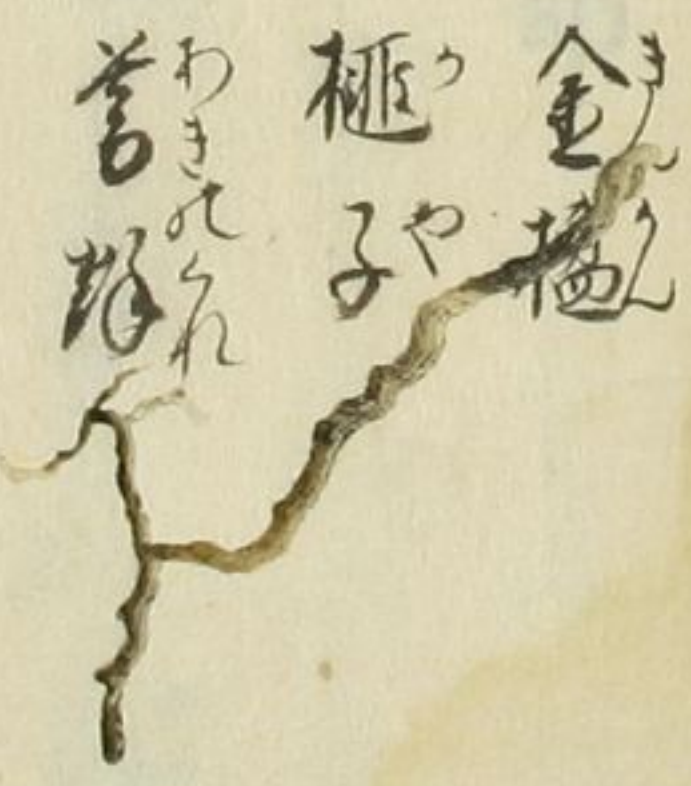
金梅

榎子

苔路

回青梅

稚子



古今能誦明題集秋部

六月之妹

年のうちよまはかど舞うまの妹

源氏

おとけく秋と入りり長あぬら

全

い月よあふもつねくわのさう那

全

清うら路とよもてりる清う系

巴白

海ほのまゝつ汁や竹まき

青藍

初娘

うつら帆入りとよま路とゆめりま

源氏

凌音れは吹消くくさのりま

麦根

控よまゝ路のちくや偏折戸

源氏



吹落くまよ谷わりりささるる
年ふとゆるま流れ鳥やと船の路
遊き川や橋をまよきまよう川
初の葉る情減るやと初秋
蒲た巻くまよまよるまよる路
陣の石れ一色あえくまよる路
廟くまよまよとまよるまよる路
涇れ比治くまよるまよる路
又河よも一葉れまよるまよる路
吟あやと袖くまよるまよる路
柳都もねまよとまよるまよる路

全
豊北
洞味
如岱
牛至
紫花
可歸
麦浪
其汀
己烟
百川

秋き川や岸の心風入る
月顔と斜きはまよるまよる路
初路りねひくまよるまよる路
あいらと巻くまよるまよる路
河性と者外に入るまよる路
とまよるまよるまよる路
蓮の葉るまよるまよる路
妻の麦の情減るまよる路
瀧る帆も一人合減るまよる路
夕くまよるまよるまよる路

畔古
為谷
若風
布川
羽境
し路
雨童
心翔
伊山
唐帝

乳をささぐりや星のしほり
鶺鴒やかのがゆりきむしり
親のわりもかきこく星の
星の面をわたりとあはし
まは星あふりりり星の
星の面にわたりとあはし
まのほりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり

麦秋
希因
源節
今
雲帛
趙破
玉貞
一紅
今
支考

七夕雨

天國やよはるとして

源節

浪河

きこせりふあとのよるり天
澄くは恨なげれりはる波
高浪人にせいで船ませるは
世よとれりりりりりりり
飛ぶ星のほきち草りりりり
家屋作とらつりりりりり
花波りりりりりりりりり
比よ庭る傷れはつるりりり
りりりりりりりりりりり

其角
鬼士
伽原
梅路
青藍
起波
鳥磯
其物
源節

七夕 鞠 のちりせき

斜 窠 鞠 へ 衣 袂 か う ち や 貸 ち 袖
織 女 ち ら ち け け け と 山 へ 鞠 の 音

海 及
吳 江

文珠 入書 とんち

又 誰 ち ら ち 智 恵 や 後 ち ら 牛 子 宗
文 珠 入 書 や 意 ち 思 ち 思 ち 思

仙 鶴
鬼 貫

洛水 守 千 日 活 きよひつぎ

出 ち ら ち ち ら ち ち 日 ち ら ち ち 形
け 活 子 ち ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

唐 帝
風 之

靈 祭 示 まじり

ち ち ち ち ち 日 の 活 ち ち ち 活 ち

唐 帝

足 ち ち ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち

唐 帝

号 柳 や 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

今 之

ぬ ち ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

今 之

遠 比 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

古 由

号 柳 や 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

平 用

目 ち ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

麦 林

号 柳 や 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

那 波

活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

希 周

活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

相 原

今 紀 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

双 鹿

活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活 ち 活

三 回 坊

初音を詠う荒くしる津利
たはらけよ 味 常よりつく回や 是より
西河よ 常理より 老 婆や 是より
あいらし 詠の長や へ へ へ
水うきよ 詠の事になり 是より
墓 冬 とうゆり
あまの 額よりつくや 墓より
上下より 詠よ ぬ ぬ ぬ
生 乃 靈 せいりょう
も 福より 鳥より 迎ひや 生 乃 又
生 乃 又 見より 福子も ぬ ぬ ぬ

重 市
琴 清
一 氣
之 六
生 北
吉 紀
赤 尾
波 村
吉 又 云

燈籠

谷くよ 光き 守り くる 燈籠
小寺より 吊 柳と ともき 燈籠
わ 草より かつ 燈籠
又 ころより ともき 燈籠
湖より ともき 燈籠
意 提 樹より 文の 燈籠
出 女より 顔より ともき 燈籠
と り ます 人より ともき 燈籠
草 類と 柳より ともき 燈籠
あ け け け ともき 燈籠

白 文
一 氣
草 兒
楚 雀
里 斗
羊 洞
涼 宇
玄 塔
画 洲
目 鏡

神かみ

かとり子や欲入りまひよと磨けつ
お授とくちよ文ゆくおとりう申
向曉のまりまゝ 厚むおとりうな
わづらまゝとらるとちよととりう那
輪よあゝとわめれぬぬ編み
風父うおとくまゝふかとりううふ
常帯とゆふまゝして若る編み
猿ぬの・信通よつとらおとりうふ
飛ぶとまゝ後流りしせぬおとりう
はばよ御うわとせとととりうな

島洗
汶上
申斗
占記
以言
柳波
樓名
八後
吾物
沅水

心くい教よらふまゝとととりう那
とら御紙指しせとらととりうな
とと十ヲの首ととととととりう申
跡よあぬと目よも年よおとととりう
角能くの器ととととととととりう
洞衣ととととととととととととりう
ととととととととととととととりう
かとり子や故に後のとらととととり
同くととととととととととととと

可口
可由
まい
樓川
兎士
重帯
一嵐
厚帯
今

二井寺女流にいでらにうら

二井寺や若ふ女と美まらる

汶上

花炮はなぼ

色くくう草とひそくおびた花火
年かこく人ともよめておびた花火
燈くはあかりくくう音あはれひ
法士のまうもはひておびた花火
根ふゆもあひひそくおびた花火
おびた花火とひそくおびた花火

頻入ひんいり

つと入やまの燕よけちりひ
はと入やうのてんのと揚てま
つと入やまのてんのと揚てま

千代
玄路
所坡
萩丈
李師

松入まついりのまるとまのまもまうりり

松梅まつばい

や梅入や梅の梅ばいもて帰れ
梅入や梅の梅ばいもて帰れ

逆入さかえり

雪入や雪ゆきとゆきにゆきひゆきりり
日冬西の梅うめと梅うめもて帰れ
雪入や雪ゆきとゆきにゆきひゆきりり

残雪ざんせつ

秋の節あきのはよまほれあきもあきもあき
いづちよのまほれあきもあきもあき

元梅
雲和
丹次
白上
白水
一氣
素冠
胡周

持りぬる扇にうたれりけりさう系
くひ路のまこと流りけり思ふ
川中よ流るるあふりけりさ
鶴はまご海へ飛ぶはり思ふさ
葉の香もまご動きまぬりさ
麦も入りぬれどよあふりけり
其入りたるの香もさるるはさう

露つゆ

ちりあや梅よさうまふつつの山
ふあや野鳥の故友のくつくと
去盤師よ流るるくつくとあり

和鳴
去盤
一葉
梅路
経哲
一葉
如牛
荷分
去北
去抵

ちりあや梅よさうまふつつの山
ちりあや野鳥の故友のくつくと
去盤師よ流るるくつくとあり

暮きり

ちりあや梅よさうまふつつの山
ちりあや野鳥の故友のくつくと
去盤師よ流るるくつくとあり

観月いりま

いりまや山と梅よさうまふつつの山
観月や二之夜よりさうまふつつの山

経哲
心俊
西羊
柳雪
文里
尾人
可存
希同
去文

路の歩や鶴鶴をさぬみぬつと
 坂の口此裂くもわり路の風
 村干小折目のつくや秋の風
 毛撃く口より出きりわきまらう歩
 着た葉うくし道まらや路の風
 秋の歩やまき冷つ道まら路の風
 路の風やとすびの敷れわくさ向く
 桐の葉と先ハ目げく路の風
 路のせやま外一とらつと草入上
 わき風やまぬ芭蕉もらまて
 西の路馬路やわき此可歩

原帝
 今
 今
 六柿
 故同
 希同
 等白
 如母
 生可
 斗光
 湛水

吹れまきと踊るよ報や路の風
 鶴鶴細にむとびりあぬ路の風
 文星
 菱心

角紙

知息うりわら鹿をりしこま角か人
 とむひらう秋のさとこまとつ子
 出るまきひよ角くまら角力小
 市よまきと路のまの音よ角紙うま
 右角のや月も偏る西れか女
 人多れ中と紀う角力この物
 南より人くらいつれとむひ小

唐帝
 扇計
 白明
 吐雲
 玄芝
 眠石
 鳥谷

秋庭記 わきのうら

鶯とやとわくく響るうとくれ外

秋螢 あきあかり

千那

蹴籠につるく減ゆくわきま式
減る飛女堂や毫廟をくかく

妹蝶 あねてつ

風毛
五仙

蝶くや入る産向くきく入るいろ

秋蚊 あきあし

赤奴

越る坂のねまりに筆入中

宣清

わきの坂や産まはあつと年入る

雨石

茅鯛 かやうだい

日くくや終くまてと昔か日浅

丹波貝系
はて

日くくやまて人の雲瓜はあち

源常

茅畑や松東く港を小港

丈梅

飛くくや西へ伽藍く光る河

秋路

日くくや響るく守る後もく

凉宇

日くくやまよのたまひの一里塚

高帆

日くくや後のみか来り新

喉石

比久つ雁くや産ま自惚流れせ流る

し路

日くくや産まはあち御牌

五衰

蜻蛉 せみ

津まのよ一町まじよこんが成
遠山や踏踏率ゆたつひかこ新

物路
路之海

踏踏や鳴くぬのりよ風うる
落くまふ木よ似袖之や
準縄とりとて〜病る踏踏
こんがくやあぶいよ風の破よ浪を
踏踏や落よれ櫓よ櫓よ〜
蓬〜や〜ちうれて立踏踏
鶴鶴の同汝た〜く〜んが〜形
〜が〜や〜も〜と〜乾て若
長〜の〜も〜若る踏踏
橋る〜橋よ〜く〜踏踏
〜の〜と〜や〜

紙魚
李の
唐傘
柳若
今
夕代
三橋
知更
斗心
一氣
萩文

喚涼より紙招よ〜んが
むらびりれ〜歩く踏踏
おのが目よ〜あおれ〜んが
白〜ひ〜り〜んが
踏踏や〜水〜櫓
迷ひ子れ髪ゆひよ〜んが
葉よ〜籠〜通の踏踏
皚 橋よいせ〜いよぶ
福よ〜回あびあ〜いよぶ
うなづい〜穂の〜わが阜

阜冬歌 いまぶ

百弁
喉石
洗若
唐宇
辻生
柳若
兔剛
皚
一湖
洞店

愁 碎まろく

まろく連とつらむと啼すまろく
右橋と由入とつらむと啼すまろく
まろくよ母ふくまろくまろくす
まろくさくちびやつらむと啼す
にーは本もまろくまろくまろく
若川とつらむと啼すまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく

文並
希田
玄路
松花堂
原帝
今
和木
青藍
一氣
人

押折戸の齒とまろくまろく
鶯のさかすわろくまろく
確と漏やにろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく

夜町
孝徳
雨竹
素淡
大茂
後女
旭路
素輪

紡績娘まろく

まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく

活光
羊波

金鐘兒

あゝいしや柳地ぬすし啼山り

久布和年之

ふとろくく屋ふかや久保和江

獨角仙

糸譜がそりちひくてもやかぬと虫

天牛

そ女仰髪きり虫う從く若子

虫

虫愛や脚とろりふけく肩よ至

虫わくくや切くぬ股糸く虫の糸

琴詩

再依

糸起

木因

戶外

負至

牽牛花

羽衣や人工の砥水沈む若子

わさるやゆらよ私此はちり中

物かちやかのう憂々と地湧し夜く

ゆさ影や響之れ花とて揺てをく

羽ふゆう花や木陰のれをちりき

わさかちや月よとろりよて柳まきく

羽可保や扇よ我せふ可もまき

ゆらうほや短い長く純らうひ

物影や袋遠くくうねる

わさのほやふて香る中よ鼓うま

希因

今

赤室

今

今

一知

由せ

涼傘

今

兎士

上. 東ききよむ 柳籠や 玉まくり
新籠や 橋登よ しまき 燈籠 渡
幸平 牛鹿や 旅の 流れい せき ぐり 足
胡うぬや えば 竹も 降つ ころろ
わさ 籠や 人ぬい ぬ籠く 若子

駁將美か

胤人よ 立あさ 伝や とも 多く
こころ いてい せく まらや とも かく
常い ころい 公い おわい かも ねく
家い ころい 耶や うい おけい かも かく
口い せく 笑い ぬ籠や とも 多く

柳居
可樂
一胤
以考
深魚

封ト
希因
原帝
今
起波

海風 此わ ぬりく とも 多く
葉山 子い ころい ぬ籠く とも 多く
唯お ぶのい せく 定い や 女市 死
蝶く ころい 障紗や 押い とも 多く
よい ころい いて 障の 寄い 籠や かも 多く
わら ころい びく 梅も つい ころい 奴籠
吹た ころい てる 葉の ね女や かも 多く
萩及 枝の 十二 とも 多く かも 多く
こみ ね 多り 風い とも 多く

葡萄 ちぢる

草い ころい 結く 中い とも 多く

祇崇
涼劍
以考
西洋
麦飯
猪白
杜門
祇十
似竹

小奴

葛蘭らん

之^{わぶ}の^もく^尾の^遠子^や草^花色

浄儀

胡枝花くわしか

路^ろに^まる^月丸^うや^夜花^花

如粟
川夕

秋海堂

路^ろ海^堂西^風の^いり^よ夜^より

芭蕉
素浅

旋覆花せんぷく

と^らる^まや^響く^やけ^いよ^り道

麦風

瀟^と々^ふ々^まや^元源^子と^んん^ちら^らく

百尋

桔梗ききょう

夕^ゆや^梧杖^入中^へ深^くゆ^く

如芥

入^いち^りく^まく^まく^開く^まく^中く^の好

波上

非^ひ子^に級^入出^来る^梧杖^杖

似升

常秋羅じょうしゅうら

大^お津^つ路^よか^わい^色の^音路^つ路

陽子

烏唐くわとう

道^{みち}細^くく^まく^草花^美う^つの

芭蕉

と^まし^くさ^りの^のく^月う^まけ^入

一嵐

女正月にょしょうがつ

いそぐまへは湯をこくぬほや女青
祇のよみ跡ふるれ掃ややいとるれ

古記
沾雨

節集のき

小堀松よ雛児揚光く跡菊水
道乃のれつ草くゆく跡菊水
新撰くゆは小堀菊水くゆく水
谷水の碎ふ風掃もして跡菊水

柳若
河内
琴詩
十字

懋野金花く

うく花と見えとくふんの花れら

菊院

雀麥ふ

突く花く刈くともくす雀麥ふ

楚仙

芭蕉く

寒山よ遠いく見えかき勢と那
放冬くく冬よくぶくく冬とく冬
い流くよ日れ出ほさる芭蕉水
ありくくの別く冬るはせゆり
ゆきくくくくくくくくくくくく

桐原
白英
東川
吹雁
権岸

秋をよ

秋ありかしても秋のあけさる

如行

稲花く

井へ退く雀の風や稲く美

雄午

早稲

涼しきや子福の香ひうらむなり
早稲より香や蟹遊るはみねの道

妹世茶茹りまじり

日く流ぬくももすれすれは
卯に名れつけやうらむて路なき

西風 さいふう

つらつとてとまらぬ流るる西風は
宛懐猶よまよとらぬ西風

冬風 とうふう

冬風や二百十日とかど流るる
かとうつらつとてまよとらぬ

冬風やまよとらぬ西風は
かとうつらつとてまよとらぬ

壺蓋 壺蓋

壺蓋 壺蓋 壺蓋 壺蓋
壺蓋 壺蓋 壺蓋 壺蓋

壺蓋 壺蓋 壺蓋 壺蓋
壺蓋 壺蓋 壺蓋 壺蓋

絲風 いとふう

日の掃とすすりて入るは涼風は
網の目よ水とゆめとてしちまう

枕 枕

涼しきや子福の香ひうらむなり
早稲より香や蟹遊るはみねの道

麦林
支考

可洋所
起口

珈原
兎士

維鳩
禹貞

鳥林
水羅

麦林
几山
楚岫

占記
笑去
孤帆

りつまや吸ふ香思入りいよ思ふ
舞の香や魚とさきさきとさきさき
ほく津まや魚もゆつては悦んで香ふ

香椒

目に映らるるまじい色より香椒
垣根小も人よも山くさくさ
一トつげく文ゆく杖やさか
硝子入道てもりさやさか

桃

初花の桃や三葉思よりせて香
毛桃

香刺とろくても桃うをよりの

一葉

ぬくく地よまくまでと一葉の香
鶯の冠色とかまが一葉の香
昔道にゆれ月と影くく一葉の香
吹浄く石ハズくまは一の香
跳筆のトつ消して一葉の香
端師の飛び退く香をよめる
かたしなが席まきく一葉の香
かきぬ人くくまかへん香をよめる
上弦く中を思てまはうか

一名

所波

市名

御松

紫紅

貞丘

度江

谷水

香呂科

白枝

其由

葉に

孝文

双飛

也右

鳥文

仙衣

長角口、以目、く、く、一葉、

穀柳、く、く、く、

極、

私、應、よ、又、二、く、く、く、く、

一、

く、く、飛、歩、も、尾、相、く、く、く、く、

里、

く、く、く、く、く、く、く、く、

有、

上、見、福、は、海、く、く、く、く、

子、

私、以、此、若、く、控、る、く、く、

深、

秋、月、の、洲、く、く、く、く、

白、

木、種、く、く、

野、の、車、菊、く、く、く、く、

兔、

枝、折、く、く、く、く、

鳥、

口、入、く、く、く、く、

浮、

植、器、く、く、く、く、

其、

目、言、く、く、く、く、

柳、

道、乃、く、く、く、く、

雲、

二、百、十、四、

柳、く、く、二、百、十、四、

涼、

か、く、く、く、く、

云、

八、

八、羽、中、瀧、く、く、く、く、

麦、

八、く、く、く、く、

起、

八、羽、中、福、く、く、く、く、

月、

妹釋名

吹うす路や、良う糸うく河

事也

わさうの座や、らく波屋

波上

摺扇をわきたく

世

至うの座や、らく波屋

入楚

こつと音う至うもちうる扇うか

子母

二日月

淋うす此門よ入りうこ此月

一氣

ちのわあう、び夜まのま

希因

只えの思ふうらなりこの月

一氣

見布けく、水衛よ入れやこの月

洗名

もれ向う、兒う年やこの月

去路

司召つこの月

ちうす、極氏を洋うさ

世君

月

あまう、ねく、粗の葉ふ

其角

うこ子く、梢と雨ととちね

芭蕉

あくと吹ちうこのさうのわ

沼巴

石月や海嶺はこれの海と
あつちや舟ふとのよちと
石月や舟は魚の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と

高島
一氣
安里
吉藍
今
直角
泉布
萩丈
二坊
鷗山
鳥帆

あつちや舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と
石月や舟は舟の海と出れ
あつちや舟と舟の海と

白皮
長程
文小
竹四
し路
冰涼
い丈
六柳
麦舟
さよ
指頭

あふやうなほぬ道いふ物うらり
物陰ハ物陰くわりかゝるらる
よる月や池とわがうらあまする
まどうく人と体りかゝるんん

十八夜雨

若うやぬとくふらちよ天良花
雨まに夜通ぬやかううう月

放生と云いふ事

の枕者や蕨まうくつ首て放生と云
人別く葉山子しけや放生と云
合點くく藤よなほふ也や放生と云

合點くく藤よなほふ也や放生と云
戸代衣しとくひの月うらり放生と云

放生と云いふ事

武彦跡くく藤よなほふ也や放生と云
物まやまのふ葉ふよまのつうら
宿心くと襦衣自恨やまの物
上つ首と体跡くくうらまの物
物心まやまとぬぬく物うら
物まやまや着て襦衣とりくうら
物まやまか人うらうらうらまの物
物まやまうらうらうらうらまの物

可登

麦由

芭蕉

合

淨律

麦曉

麦根

唐律

洗書

洗書

去路

淨律

蜂房

士川

白陀

後雪

淨律

雀子

泥痕

あきしふと坂も多やこまじつ
初瀬やさきく月も犯さゆ
まじい松の鼻筋もあや初瀬に
瀬に月らしくとまぬまのく
提燈よ流上る流や初むく

初瀬

初瀬や流さぬ水もつぎ
初瀬や細い水もつぎ
うけとるや霧の尻のぬき

放水

初瀬や流さぬ水もつぎ

色印

禹貢

百丈

紫藤

許六

古由

嵐蘭

藍水

唐傘

あきしふと坂も多やこまじつ
飛ひ脚の星もつぎ
流も流るるととつぎ
色りよと田あやつぎ
かきつ 塩もれまもつぎ

桑山子

桑山子
桑山子
桑山子
桑山子
桑山子
桑山子
桑山子
桑山子
桑山子
桑山子

雲帝

破了

六坊

曲所

可昇

二十六

史九

祇丞

百道

青藍

櫻 松 更 へ 老 と 暮 り 下 家 出 づ け
下 後 の 後 へ ち ゝ ち ゝ や ぬ る 出 川
さ じ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

梅人
妹房
千婦
王才

踊 和 装 の つき

解 魔 法 師 へ 心 ち ち ち ち ち ち ち ち
夜 更 へ 鳥 の ま ち ち ち ち ち ち ち ち
鳴 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
割 れ と 先 記 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
鶴 鶴 の 記 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
家 店 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

双飛
浄帯
令
鬼士
去路
鬼例

水 鳥 の 泣 じ ち ち ち ち ち ち ち ち
踏 鈴 へ 海 へ ち ち ち ち ち ち ち ち
さ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
や す ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
水 鳥 の 泣 じ ち ち ち ち ち ち ち ち
柳 花 へ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
吹 浪 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
撒 佃 更 へ ち ち ち ち ち ち ち ち ち
若 師 へ 風 障 ち ち ち ち ち ち ち ち
今 村 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
人 夢 へ 田 圃 へ ち ち ち ち ち ち ち ち

長眉
厚成
波上
萩路
涼子
眠索
未了
洗言
一針
乙姫
葉山子

階階へ投せられたる跡初は外
総つ冠の妙わびて居る様もさ
席ませるま形つゝす跡も此の形
蒲いかり敷く一回はまうく跡もさ
一卜つゝ函の脊中とつゝむ様もさ
交遊たがひ堂へ登るおまの骨もさ
燕の出しげく席跡跡もさ
向ふては活も足ぬ野和城も
控いかり母と一曰はし跡もさ
常葉もこの形もさ
さぎの紋のちまりくおま跡も

堵克
車石
海堂
花月
牛凉
可由
し路
古由
今
一花
今

編笠と帯へ折らん野初もさ
山跡の尾は洗く花もさ
綱つな撒くさと押へ跡もさ
新あら糸へ種荷く玉跡もさ
堂の上は吸うさりさ跡もさ
田と圃も皆食うて跡もさ
一時は備昨更のぬち跡もさ
別わかりうたへ席もさ
くまの組の中へ跡もさ
わの布れとさ跡もさ
跡つ冠へ根とさ跡もさ

屋戸
鹿母
涼楓
松文
破了
冠子
更物
ま藍
可也
西堂
眠石

駕化鳥田鼠 ぶらりぶらり

雲れ移や化る氣もあわたり

和歌理世里 むらり

東と尋ひの程もや和歌理世里
他の鳥もあわたりとて
元山とよのが峰門やとて
白怖き鳥よといふ程とて
葛に延びたもあわたりとて
佐藤の後へあわたりとて
鶴や鶴うらとて和歌理世里
まるとより雨もあわたりとて

唐傘

文考

麦根

玄路

後人

唐傘

晴帆

百川

青藍

雁 かり

けし流の里とてあわたりとて
物丁や山へ此道は雪よとて
長き夜よあわたりとて
河原のぬれぬとてあわたりとて
戸へまゝあわたりとて
さるる見ればあわたりとて
物丁やあわたりとて
唐傘とてあわたりとて
坂崎とてあわたりとて
物丁やあわたりとて

湖十

系

一

柳

唐傘

今

附風

残

麦根

田城

孫ひらのうの高にも貸さするるう

許石

胡桃雀 やまぐし

やまぐしや脊中りく者水の上
の雀雀うくくるぬるりの痛れ山

今風
鬼士

桑唐 まわぬう

冷ひ飽く者水もりくすまあまう

鬼塚

斷木鳥 まきつづき

画え圖まの外へ新う言やてううく記
啄もるや清えのぬえて飛ひうさ

笑林
音高象

鶉うづら

ううずらと人の記さぬくけらうの那

笑林

鹽しほ仕し層の板い金ちとる道の鶉うさ

ふに

口くち舌しれ中へ出れうつくうか

大阜

一ト夢でままいとくらか鶉の那

万安

突つのらぬ葉に振り鶉の那

今風

角かく解かい人と妙ま小こてやふうづく外

麦社

おのり車はあらちりあぬうつく外

鬼士

跡あとれ尾もくや短くと啼うつく

巴山

新あみとうにおとめかか鶉の那

浮山

雁かりうまとぬるく一くうづく外

巴山

鴨とす

日ひと雁の杖こむうとど

終極

星をくしけりけりけりけりけり

鶺鴒

九臯

山中に寺ありてはとわらうる花のうら
つゝといふと杖こし山田う鶺鴒

梅人

白扇

帰燕

燕やかたつこつこつと高くや

浄律

燕風そ尾よとゆゑしつばは

鶺鴒

燕や海鳥わらわらと波うら

梅

燕や指もささぬわのうら

紀風

風紀とまふくうかしの燕うら

楚淵

燕の毛もささぬわのうら

桐葉

鹿

若う紙指のうらと月と入れ

浄律

二人の鹿もささぬわのうら

浄律

二人の鹿もささぬわのうら

希因

二人の鹿もささぬわのうら

今

二人の鹿もささぬわのうら

麦根

二人の鹿もささぬわのうら

鬼士

二人の鹿もささぬわのうら

素星

二人の鹿もささぬわのうら

即明

二人の鹿もささぬわのうら

白枝

二人の鹿もささぬわのうら

珈凉

山更ふく花のうしやまのうし
常燈のうほふもほどくたる戸
煙の細じ袋のうま小庵のう
浅きやまにわく庵や庵の戸
店取て月よりさく庵のう
猿人の二首のうすまのう
うほぬ人う高輝くまのう
空くほまのうます庵のう
まのうの改陽のうて若のう
奥のうのほまのうのう
吾凡のうのうのう

梅隣
一氣
貞至
西羊
楚岫
多少
多戸
釋溪
祇園
洗雪
茶来

向くよまのう吊桶やまのう
角の代治まのうとまのう
この月とりまのう庵のう
庵のうのうのうのう
海まにまのう入かや庵のう
若よれまのうのうのう
芋の葉にまのうまのう
八月の海踏まのうのう
鮒魚のう
ちのうや細まりまのう

玉紀
度は
麦推
可由
麦根
汶上
維也
ト二
石成

鈔 治 魚

鈔 治 や 角 弟 榮 ち 上 自 形

海 鰻 撰 魚

細 に 引 け っ け や 著 せ 星 入 殺

吹 ま ず 子 云 よ 多 かり 海 鰻 撰

拾 へ せ ぬ 儀 の 所 極 や っ け っ け

過 曝 魚

池 邊 儀 魚 や ち て じ じ じ 出 斗 公

老 溪 鰻 魚

昔 凡 ま け り ね り っ け っ け 海 鰻 に ま せ

海 鰻 と ち や ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

支 考

海 鰻

破 行

拾 遺

未 達

宗 治

重 氏

杜 艾 魚

魚 介 介 と 海 鰻 に 一 斗 片 の ち ち ち

下 樂 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

夕 月 と 反 々 と ち ち ち ち ち ち ち ち

鰻 鱗 樂 ち ち ち ち ち ち ち ち

悠 悠 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

花 野 ち ち ち ち ち ち ち ち

角 持 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

魚 介 介 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

魚 介 介 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

端 歸 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

汶 上

几 雲

投 危

岸 虎

一 音

漁 遠

流 之

清いさへ影入り香るる花神水
ありさかしくさし冷せぬ花神水
刈草子の扇と拾ふ花神水
鶯鳥と花苞と收むる波のたふ
くぼく波せしむる波のたふ
既く様のとくもそれのたふ
あまをく旭の交りぬれうのたふ
右にけり持よるくむく花神水
麦のたふ哀く曇る花神水
吸くく根と流くゆく花神水
軟けく垣とめくく花神水

浄宇

浄宇

文東

一花

鳥羽

曾平

河岡

門田

麦舟

青藍

今

翠蛾眉つきさ

月くさや花に半輪を渡く香の

青丘

風仙花

石巻く相と棲や風仙花

梅程

世系花かん

雪もやどれくりふらす花水

笑林

雛冠花

けいこくや團わりく波く香の

玄路

あま月もまがくぬきや雛冠花

麦茶

かきほどもよま本花とのう雛冠花

菅原

鶴と掃くせくわりけいこく

トの

日わりりいのりもち〜せ〜鶴の冠花
清つきはあはの端ま〜けいとうげ

仙露
一氣

雁来紅ゑんらいこう

宗と郷衣よはあつるやまけいとう

十千

廿一にじゅういち

月と金くわいさ〜すき〜の那
君〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
年ぬせ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
晴陰れ穂よ本うがれすまゐ

希因
幾曉
玄路
楓香

芒花ぼうか

家心〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

淡香

櫻うめ松よ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
け〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
と心袖と振〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
縁のふけ臥松の床や泥もは
足跡よ縄道ひ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
双ふた生山まのきあ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
泊とまり下れと〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
帆〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

一三〇
深詩
許六
深更
王才
少風
祇徳
未了

蘆花あしはな

草くさ葉は入いりり本ほんでと〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

湖宙
祇棠

夏花 しのぼ

しんくこふふちふや夏花の花
陰くと夏を冷ふまや花の時

藍花 わかしの花

かのう葉うし庭の中ひてや藍花
実結しるふとうしさと者藍の花

牡丹分根がしのぼ根

ちんぼの顔くくくふ牡丹の

蓮實脱くすみふ

蓮のまの葉よもぢうす花のさけり
蓮のまの葉や花びとまじりてえん宛

らすうまの海しんまど花くりんか

蓮れまの流さぬ水は流て花ブ

零餘子 ぬんじ

端端うらむくさるるぬうふうふ

芋いも

日とりてか新極とわり芋圃

草綿株 すすり

おにくくくのぬはふくや花圃

くく梅や袖よわまりく寒中しも

午草方挽 こわうひさ

泥はくも色とむくくと午草方挽

百川

土風

諸友

古記

柳鼓

草下

経魁

去諸

素端

有為

経夢

涼帝

東梅

古記

菴蓋至子時をまき

りまのまのまに夕日入地ふま

破了

本城川 こくさう

百姓入るもいす本城川

雙鳥

凡はうたしむ里やとくさ川

涼川

路の日と休之減とやとくさ川

維鳩

とのしむを産とれ こくさ川

青藍

通しとく産入るく こくさ川

西羊

茜草堀 わさき

向咲入空 こくさ川

樞子

薬堀 くすり

茶籠に席入る こくさ川

波上

茶箱は消 こくさ川

十波

馬一匹若 こくさ川

馬腹

比前入 こくさ川

時風

ほとり こくさ川

青藍

苦菜多挽 くさい

後持入 こくさ川

維鳩

茯苓 ふくろう

茯苓 ふくろう

紫英

草櫛 くさ

草櫛 くさ

車風

蔓穉や舞入るえと新かかぬ
くけうや我りやゆとびいふも
草穉や物さぶがしはとよふ人
くけのくや麻いんて路も歩
蔓うや酒もさるも穉とる流
くけのりやうりるまでと山りり
草穉や穉う朽もううう
魁柿くけくまきくくすく
玉つややとの蔓き皆ちらく

真角

金谷

浪文

十世

管吹

麦兄

如柳

為水

破り

葡萄菊

迷ひ子に活乳うたわに葡萄菊
まははうり落くくしきぶとく

李北

茂株

白英

船あよ、強ぬむよとり上るる
免さべ

汶上

白枝

鬼士

木踏

夢太

晴帆

い道とのわわくく道くくさ
まよ、穉く、あはうはの免
路風うま、道くはくさる那
くかくとまぶ養うあうくく
割くく尼伊洲のきくぬくく

あふり思ふまじく赤く露のうれ
一入と指わふう勢くまきれこれ
氣の長い庭へちわひやあはれ
鼻よあまをく病ふやまきれ
ハをまきくハ義くし道ハあはれ
枝くくハ枝くよりまきれ
是れこれ世こそまきくハ
葉よまきく樹に思書くまきれ
成りぬ里輝くまきくハ
流れてもあまに跡にまきれ
酒中くまきくハ入まきれ

支考
青藍

双飛

秋袋

紫花

笑福

極也

玉宇

梅史

又舟

以考

長生う障くとまねあま
春にまきぬ路中の女やあま
たふくみの海よりまきれ
あまに津くまきれ
妹雛像りまきれ
角能くくまきれ
野宮別のまきれ
吹りまきれ地海とまきれ
跡くまきれ

六重坊

五才

浮袋

今

一氣

多才

古物

十二夜

ふい

出づる人々ぬとのと意いしくす之夜
後う月跡山よあふぬうと云
私取と帯しと歌や後れ月
わびるなげ様よのうふや故のう
店へ浅ふ愈うわとや後う月
私をうれ法入るとこのら此月
わいふけの一とわか後う月
焼しりふあもと迫く故れと
ひきぬう店を海へたらしう月
宴と法接ふと下りてすこ衣
法ぬぬ入るあまのうまうや後のら

入世
唐帝
今
玄帝
可玉
鬼四
素花
知板
羊烟
母
巴人

文てつろ家一雁はまらう後れら
石山へ法のつ進わり後う月
水門へ法はひうりのらう月
あもせぬ桂うとてや後う月
袂まう路中へあうりたちのう
ゆきやとう袂あめたる後れら
布袂と提し進ひやのちう月
賣市うとれら

女念
山草
一乳
唐真
古硬
洞成
双虎
芭蕉
草市
司纏

飲りしと神とまらや市此月
養りしと養ふも玉尸市入り

柳居
杜若

長夜 ながよ

長夜中 ながよちゆう 幾尋 いくじん 先 まへ 家 いえ 縁 えん 軒 けん
漆 うるし 欄 らん 入 いれ 玉 たま 子 こ と と 見 み 玉 たま 子 こ 水 みづ 氷 こおり
長 なが 夜 よ や や 明 あき 夜 よ 者 もの 小 こ 山 やま 舟 ふね
二 ふた 三 さん 四 し 五 ご 六 ろく 七 しち 八 はち 九 く 十 じゅう

破了
漆
後上
洞成

夜寒 よふか

夜と節 よとふし 玉 たま 子 こ は は 長 なが 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
わ わ さ さ か か や や 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
欄 らん 干 かん 入 いれ 玉 たま 子 こ 玉 たま 子 こ と と 水 みづ 氷 こおり 舟 ふね

石上
漆
今

冬 ふゆ 山 やま 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
之 この 床 とこ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
茶 ちや 花 はな 入 いれ 玉 たま 子 こ 肩 かた 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
夜 よ 交 まじ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
お お 玉 たま 子 こ 八 はち 九 く 十 じゅう 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
か か 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
籠 かご 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
改 かえ 丸 まる 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
粟 あわ 焼 やき 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ
夏 なつ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ 一 いち 日 にち 夜 よ 中 ちゆう 入 いれ 玉 たま 子 こ

今
今
麦水
可登
冠子
淨素
里羽
可由
帯
草
際角

とら尻と招来よままはあまらる
也辞くく及び躑の小りあまらる
雲補に尻をふるまあまらる
能^ゆ麻の齋^そ造^ぞとらあまらる
ととく大うあまらる瘦る^し夜^よまら
隅くく目の泣くまあまらる
とりく大の袖よかくる^く夜^よまら
懐く虫のあまらる^まひ^ひつ^つ那
八景の漸子小と流子あまらる
山とくくと能^な氣^きもあまらる^るつ^つ那
あまらるくと麻くみたえく^く夜^よまらる

柳門
後圃
今風
由戸
几山
玄芝
眠石
噴山
一氣
可也
洗雪

高きくく夏にもあまらる^る
山^山空^空に袒^袒啼^啼ゆく^く夜^よまらる
よくく^く他^他の^の旅^旅人^人あまらる

洗翠
巴夕
西洋

持衣

泣^泣思^思よ^よハ^ハら^らせ^せぬ^ぬく^くとき^きぬ^ぬう^うは
を^を山^山よ^よ月^月れ^れ中^中は^はじ^じき^きぬ^ぬん^んは
物^物看^看れ^れわ^わり^りく^く吸^吸く^く記^記張^張り^り那
よ^よあ^あの^の女^女り^りる^るま^まあ^あぬ^ぬる^るね
ま^まあ^あひ^ひ子^子の^のま^まに^にこ^こつ^つく^く張^張る^る
君^君か^かく^く持^持ま^まれ^れま^まあ^あぬ^ぬる^るん^んは
尼^尼守^守が^が魚^魚の^の文^文や^やく^く張^張可^可ら^らる

兎士
一言
玉介
不殘
西洋
魚
原桐

二折ともうなむさくはきぬり
流るるも年らうふと姑の形
手によみとのささかむし姑の
つるの出もくさひくき姑の
頼枝の指もわらせむさく
あふにハまとうさく姑の
女房に剥きくさくや小夜姑
毀他のゆきにまきくさく
絶頂くさく宿見くさく姑の
まとうさく一版に成ふさく

鬼木
樹仙
宜考
五路
西石
希因
車宇
白院
夷陽
新酒

足りなむ亭主にここの新酒は
酒名の味も同にわら新酒は
魚の鱗がわらうさ
あしつらうは病もあわらうさ
雨露 震つゆ
かよしてもまらうのゆや流るる
棠圃に柳のゆきさく
雲うさや布さく
葉の香もゆにつくさく
西靴 つゆ
あまも戸指まき路まき

其角
柳舟
渡上
蘆籬
洗雪
津岸
希因
兔路

峰 然 鳥 息 と ころ け とも

一とまり 総 頂 に ぬ や 色 の ころ

熊 館 くまの じやう

よに 熊 凡 新 や 雲 と 山 と あり

虫 擇 じー ちみ

柳 文 の 袖 と 花 に ころ 虫 ちみ

花 わ られ 保 少 され じー ちみ

櫻 ころ に 花 け 人 手 ちみ ちみ

壽 入 大 水 為 鈴 けいりゅうに

化 ころ ころ ころ 沙 水 や じー ちみ

紅葉 錦 と ころ ちみ

唐 花 ひ に ころ ころ 夕 日 や 紅葉 錦

地 錦 ころ

つ 極 ころ 竹 四 へ 下 たり ころ ちみ

花 ちみ ころ 花 ころ 消 ころ 地 錦 ちみ

萬 年 青 ころ

水 ころ ころ 花 と 研 也 す ちみ ちみ

突 に ころ ころ 中 の 花 ちみ ちみ

紅葉 と ころ

ころ ころ 花 ちみ ちみ ちみ ちみ

踏 踏 たり ころ ころ 花 ちみ ちみ

水 ころ ころ 花 ちみ ちみ ちみ

水 上

丘 登

被 下

貞 室

梅 里

唐 帝

坂 上

芭 蕉

桑 人

雨 葉

維 也

布 因

唐 帝

唐 帝

物言れ浦吹らすす紅葉の如
こころ跡に鹿のまじりやと
元山へ日を言ふ道にけりとも
洞水の藍深くくもくちう那
物の乾ふまじり晴たりす
君うさぬ道とかうくく
世中へに白く深くとも
梳くく笛にも深くとも
洗濯へまじりくくく
鳥ハ皆深洞にまじりくく
言ふまじりて思ひの如くく

大阜

ノ乳

洞城

麦林

河坡

帛夜

後柳居

前白夜

伊山

良文

呪圭

為竿に飾もつりまるとみちり

銀告い

飯子つちもくくく

松不變色

そけまきく路にまじり松の如

南天獨り

しんや隙に海まじりかめてま

賽珊瑚

物にらまじりくくく

洞壁怖ハ小まじりまじり

まじりくくく

苦楚

午仙

如十

洞石

乙路

雄午

城市

とまううまはるりあせく柿もど泥
りふ人の鼻ちびうう物とささ

粟子

おち栗尸白丸まひぬの路とら
お波栗やそ路と程りか谷はく
から栗や山とらにわまゆま
お波く尸も継う程よ二つとつ
日後の和ら栗の物ふひか
から栗や樹根にいととらとゆ

榛子

こんがり丸丸く細藍丸暮風か

柿

ふ柿う味や女よりとぶらこも

梨

あまわ尸丸にとわつと梨れん

石榴

ト草とらまにさざか柿榴う那
あまよも吐ふにも似く柿榴うな
あま花丸端の消さくらうま
あま花丸の消さくらうま
あま口のうまにえさくらうま
このこの小口のうま柿榴う那

火波
破

浄節

理帆

宗瑞

斐白

志中

双燕

雲風

仙老

壺洲

玄路

乙路

星楓

浄宇

雨石

六柿

又美凡中々にいづかにさう流う形
とれとつと山をれ居るさうり
花とととと物合ひとよな極
新きんまの卵にむせでけ極
林ととと
神農も草ととと遠子ととと
色極ととと
菫好に見る負れおわにかうと
金極ととと
金極や喫いととと極の極ととと
回青橙ととと

花明
砥石
笑斗
厚帝
帝总
再可
自来

四喜極れととと針ととととととと
漫頭極ととととととと
段の極やととととととと
山袖ととと
飯菫ととととととととととと
ととととととととととととととととと
極子ととと
さびとととととととととととととととととと
極子とととととととととととととととととと
糸鞋に極ふとととととととととととととととととと
極れとととととととととととととととととと

芥角
菊史
梅里
西林
桃隣
尺草
厚帝

ゆく穂^ち戸^りも^りにも^りふ^りく^りいと^りる^りは
枝^りにあ^りか^り初^り成^り一^り葉^り戸^り秋^り成^りれ
初^り成^り牛^り草^りの^り枝^りよ^りく^り控^りく^り路^りの^りく^り道^り
い^りも^り松^り一^りし^りり^りく^り藩^りも^りり^り記^り成^り言^り
た^りも^りせ^りぬ^りぶ^りあ^り茹^り成^り葉^りや^り秋^り成^り言^り
あ^り風^りと^り成^り中^り欲^りく^りる^りに^り秋^り成^りれ
あ^り秋^りの^り道^りく^りあ^りが^りす^りお^り葉^りく^りり^り

秋^り成^り言^り
一^り葉^り
葉^り
葉^り
葉^り
葉^り

あ^り秋^りの^り道^りく^りあ^りが^りす^りお^り葉^りく^りり^り
い^りも^り松^り一^りし^りり^りく^り藩^りも^りり^り記^り成^り言^り
た^りも^りせ^りぬ^りぶ^りあ^り茹^り成^り葉^りや^り秋^り成^り言^り
あ^り風^りと^り成^り中^り欲^りく^りる^りに^り秋^り成^りれ
あ^り秋^りの^り道^りく^りあ^りが^りす^りお^り葉^りく^りり^り

